

平成24年度第3四半期決算概要

2013年3月

株式会社静岡銀行 頭取 中西 勝則



静岡銀行

静岡銀行の取組み

●貸出金と県内シェア推移	1	●生産性の向上 ～BPRへの取組み	17
●地域密着型金融への取組み	2	●生産性の向上 ～生産性向上による成果	18
●法人部門の取組み ～新規事業所取引の開拓、成長・未開拓分野への取組み	3	●自己資本比率	19
●法人部門の取組み ～アジア戦略	4	●株主還元 ～全体像	20
●個人部門の取組み ～消費者ローン	5	●株主還元 ～自己株式取得、EPS・BPSの推移	21
●静岡銀行の高い信頼性	6	●2012年度業績予想	22

2012年度第3四半期決算の概要

●2012年度第3四半期決算概要	7
●預貸金利回り ～ポートフォリオの変化	8
●貸出金 ～平均残高	9
●貸出金 ～期末残高	10
●与信関係費用	11
●リスク管理債権	12
●有価証券	13
●預金等	14
●手数料、預り資産	15
●経費	16

参考資料

●第11次中期経営計画「MIRAI～未来」の進捗状況①	23
●第11次中期経営計画「MIRAI～未来」の進捗状況②	24
●第11次中期経営計画「MIRAI～未来」の進捗状況③	25
●リスク資本配賦	26
●中小企業金融円滑化法による貸出条件変更先の状況	27
●グループ会社の状況①	28
●グループ会社の状況②	29

静岡銀行の取組み



静岡銀行

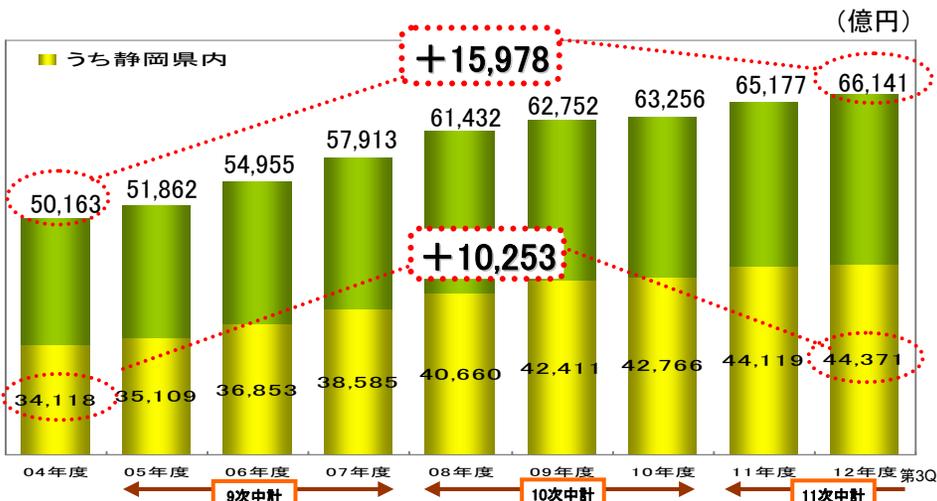


貸出金と県内シェア推移

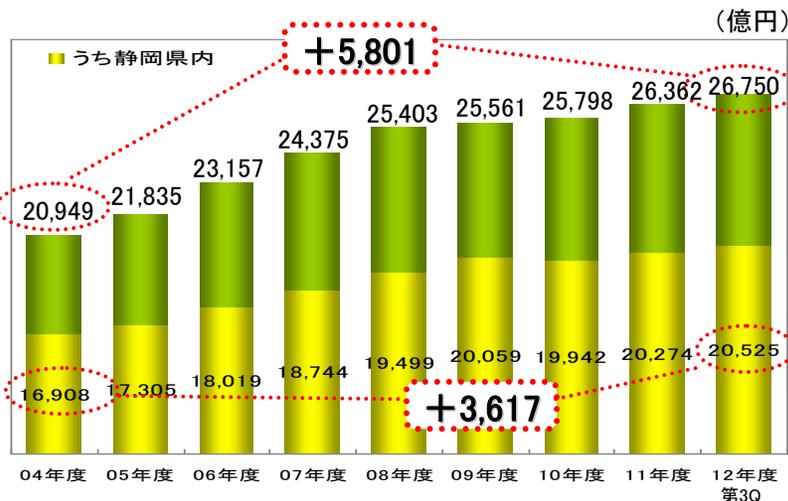
SHIZUOKA BANK

- 2004年度から7年9ヶ月間で、貸出金平残は+1兆5,978億円増加、うち静岡県内では+1兆253億円増加
- 中小企業向け貸出金平残+5,801億円増加、消費者ローン平残+8,807億円増加

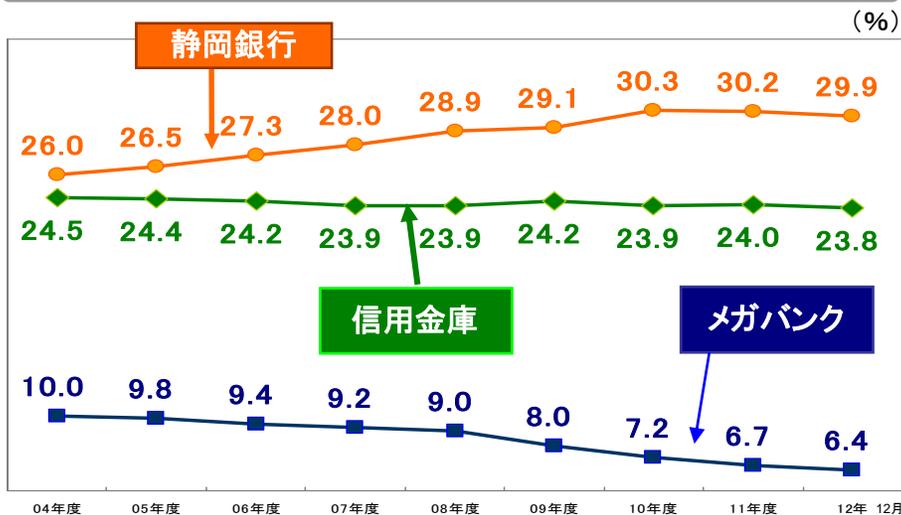
総貸出金平残の推移



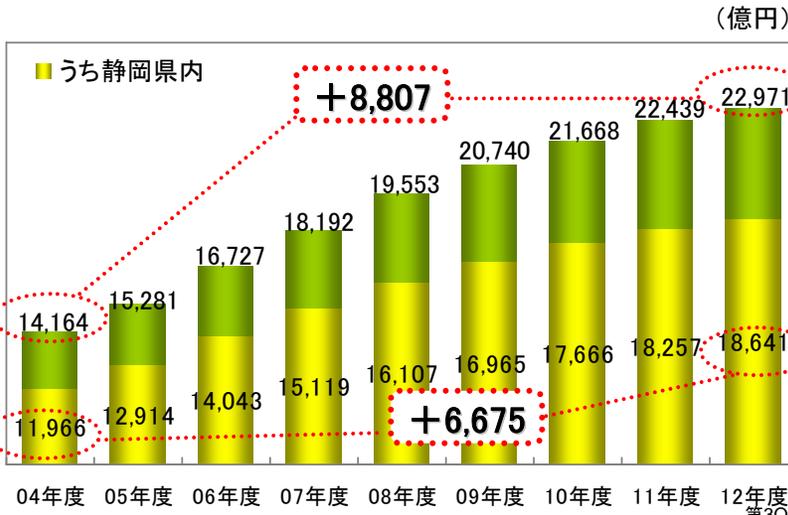
中小企業向け貸出金残高（平残）の推移



県内貸出金シェアの推移



消費者ローン残高（平残）の推移





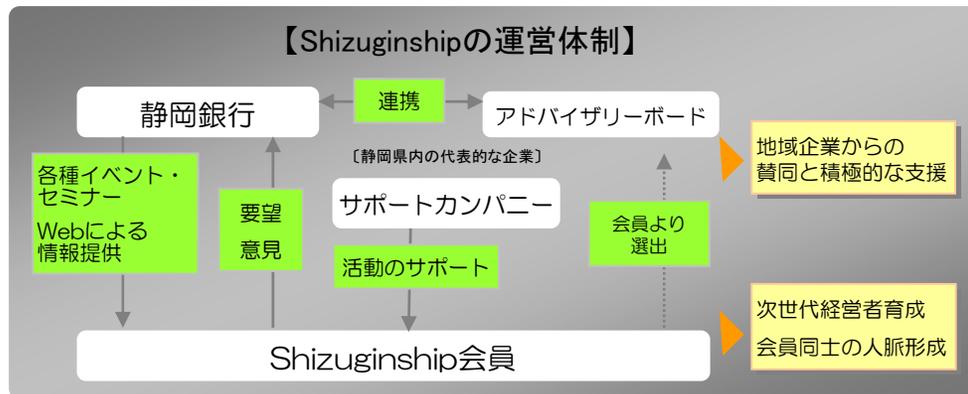
地域密着型金融への取組み

SHIZUOKA BANK

- ビジスマッチング、次世代経営者塾「Shizuginship」、経営改善・事業再生支援を3つの柱としたソリューション営業の展開により、取引先とのリレーションを一層強化
- こうした先進的な取組みが県内シェアアップに結びついている

次世代経営者塾「Shizuginship」

- 次世代を担う若手経営者に対する研鑽と交流の「場」の提供
 - 会員数（12年12月末）／863社、1,297名
 - 12年度上半期セミナー・視察会への延べ参加者数 1,669名



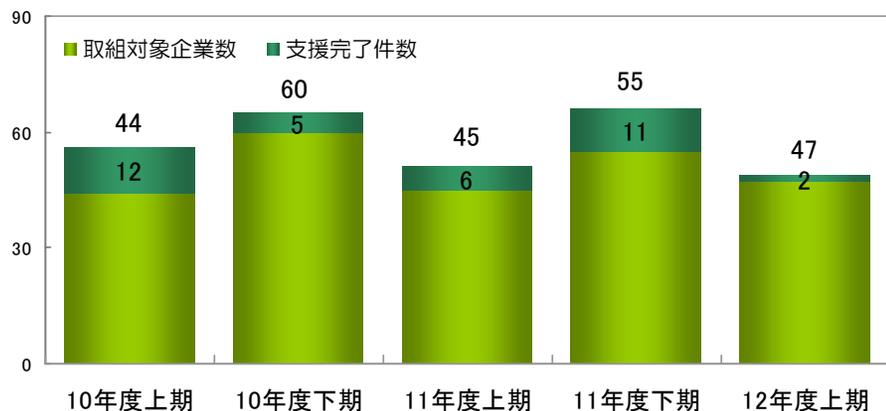
ビジスマッチングの成約実績および融資獲得額

- 販路拡大などを通じたお取引先の業容拡大の支援 (件、億円)



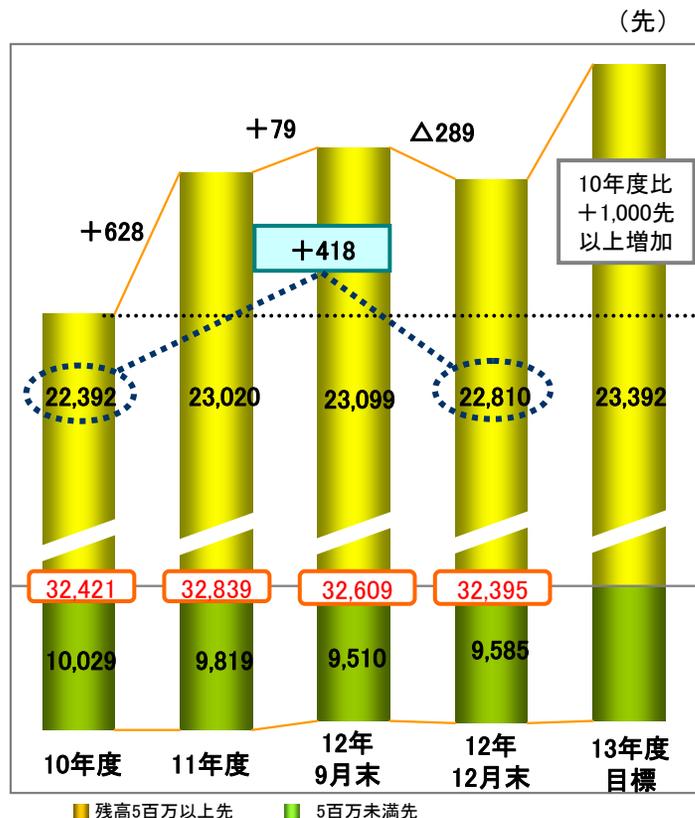
経営改善・事業再生支援への取組み

- M&A、DDSなどの手法に加え、外部機関の調整機能を活用 (件)



- 2012年12月末現在の法人貸出取引先数は、第11次中計スタート時から+418先の増加
- 「成長・未開拓分野」に対して積極的に取組むとともに、ソリューション営業の提供を通じて新たな資金需要を創出し、取引先数の増加・シェアアップに結びつける

法人貸出取引先数の推移



戦略的な人員配置により、新規貸出取引の獲得に取り組み、11年度以降、新規法人推進担当者を+18名増員（計33名体制）

ソリューション営業 ~成長・未開拓分野への取組み~

医療・介護

- ◆セミナー開催を通じた情報提供・ニーズ発掘
- ◆医療分野担当者の増員(+2名)による体制強化(計12名体制)

(億円)	11/上	11/下	12/上	12年度第3Q
融資金額	259	330	474	245

環境

- ◆環境ISO取得に向けたコンサルティング
- ◆環境関連設備導入に向けた資金面のサポート

(億円)	11/上	11/下	12/上	12年度第3Q
融資金額	68	63	82	34

農業・ラース関連

- ◆各種商談会への出展、販路開拓、第6次産業化支援（農業経営アドバイザー資格 保有者（11名）による支援）
- ◆静岡県農業信用基金協会との提携を通じ資金ニーズへ対応

(億円)	11/上	11/下	12/上	12年度第3Q
融資金額	36	72	38	32

事業承継

- ◆重点推進先を定め、グループ会社や静岡県事業引継ぎ支援センター等の外部機関と連携し、事業承継ニーズに対応

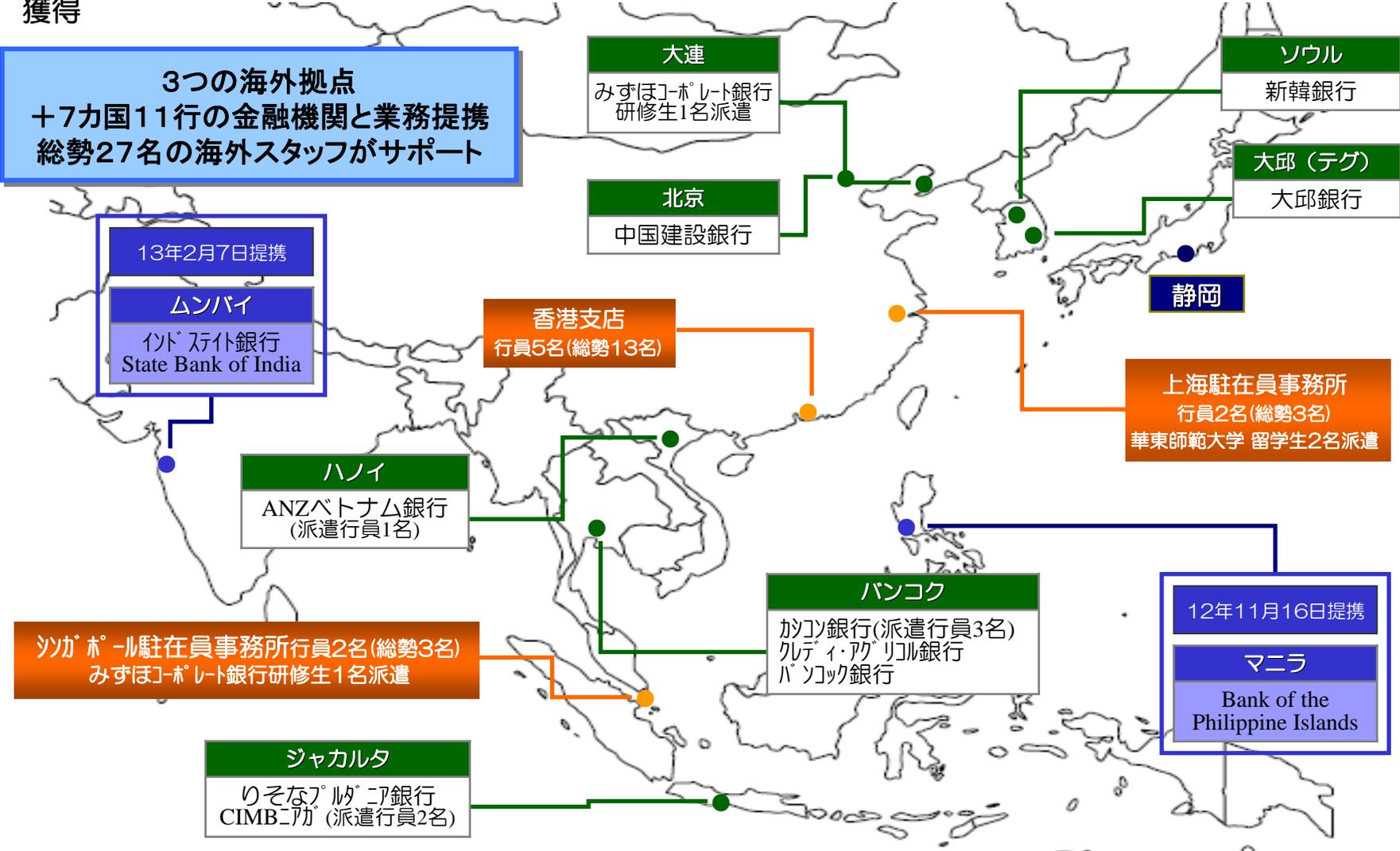
(億円)	11/上	11/下	12/上	12年度第3Q
融資金額	40	42	95	32



法人部門の取組み ~アジア戦略

SHIZUOKA BANK

- 海外での提携戦略によりネットワークを構築。取引先のさまざまなニーズにきめ細かく対応してきた結果、融資や外国為替取引において、着実に成果へと結びついている
- 12年度第3Qまでの海外進出関連融資113億円、海外進出支援を評価されたことによる国内融資54億円を獲得





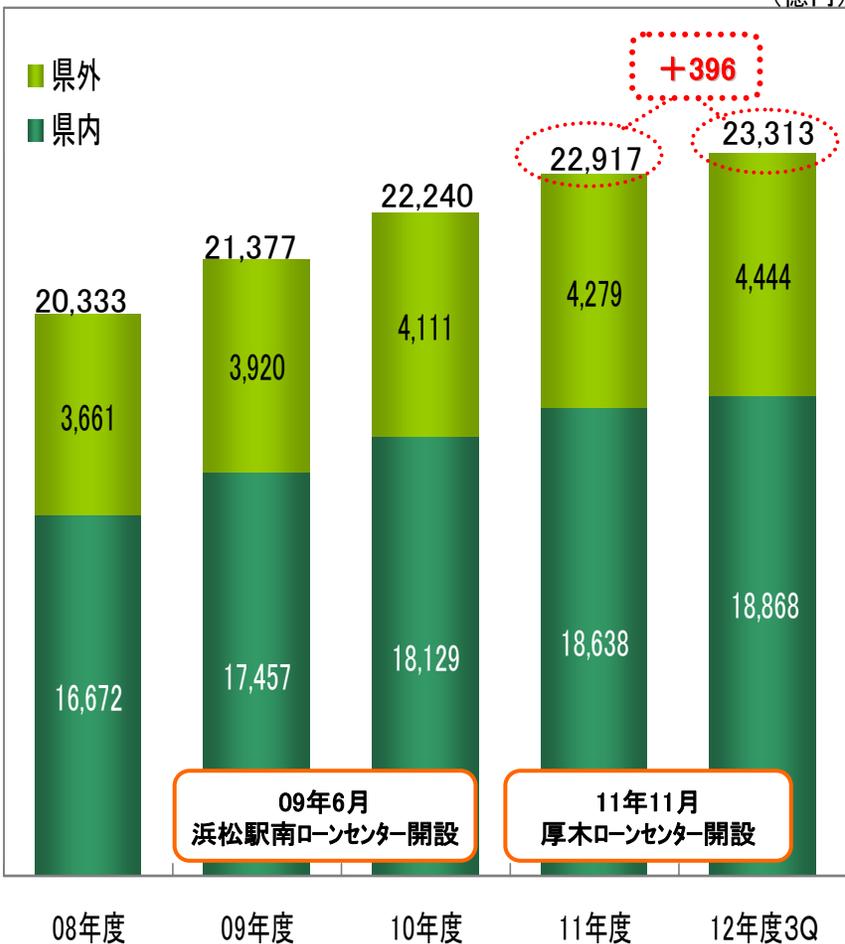
個人部門の取組み ~消費者ローン

SHIZUOKA BANK

- 2012年12月末消費者ローン残高は、住宅ローンを中心に2011年12月末比+396億円増加
- 業務プロセス改革による生産性の向上、付加価値型商品の投入などを通じ、引き続き消費者ローンの成長性を高めていく

消費者ローン残高（末残）の推移

(億円)



取組み内容

業務プロセス改革

- ◆第11次中計期間中に▲6割削減
- ◆住宅ローン業務にかかる処理時間の削減 (12年度中に10年度比約5割の削減に目処)

生産性の向上やコスト削減を通じて採算性を高め、競争力を確保

金利低下の抑制

- ◆消費者ローン営業担当者における業績評価インセンティブ「金利ポイント制度」による新発レート低下の抑制

12年度第3Q 住宅ローン平均新発レート 1.116% (12年度上期比▲0.077%)

新商品の投入

- ◆12年7月に発売した新たな住宅ローン商品の推進

付加価値型商品による潜在ニーズの発掘と競争優位性の確保

・8つの疾病保障 (+2つの特約) 付き住宅ローン
12年7月~12月の実績: 241億円

静岡銀行の高い信頼性

- 海外2社、国内1社の格付機関から、高水準の格付を取得
- ムーディーズ社による長期格付は、日本国債と同水準の「A a 3」と、邦銀では最高水準

邦銀トップ水準の格付

(2012年12月31日現在)

	長期格付	短期格付	財務格付
ムーディーズ	A a 3	P-1	C+
スタンダード&プアーズ	A+	A-1	a+ ※
格付投資情報センター	AA	—	—

※スタンドアローン評価

2012年度第3四半期決算の概要



静岡銀行



2012年度第3四半期決算概要

SHIZUOKA BANK

(億円)

〔連結〕	11年度 第3四半期	12年度 第3四半期	前年 同期比	進捗率
経常収益	1,636	1,559	△78	75.3%
経常利益	582	576	△6	83.4%
四半期(当期)純利益	303	492	+189	88.7%

・連結子会社の持分比率引上げに伴う
負ののれん発生益:129億円
・法人税等の減少:前年同期比△49億円

〔単体〕	11年度 第3四半期	12年度 第3四半期	前年 同期比	進捗率
経常収益	1,407	1,326	△81	74.9%
業務粗利益	1,150	1,147	△3	77.2%
資金利益	972	914	△58	74.6%
役務取引等利益	108	110	+2	71.1%
特定取引利益	△2	6	+7	80.1%
その他業務利益	72	117	+45	118.4%
(うち国債等債券関係損益)	(85)	(117)	(+31)	(134.3%)
経費 (△)	609	598	△11	74.7%
実質業務純益※1	541	549	+8	80.1%
基礎的業務純益※2	456	433	△23	72.2%
一般貸倒引当金繰入額 (△)	—	—	—	—
業務純益	541	549	+8	77.6%
臨時損益	△2	△16	△14	23.3%
うち不良債権処理額 (△)	4	4	+0	12.7%
うち貸倒引当金戻入益	74	12	△62	—
うち株式等関係損益	△64	△15	+49	66.7%
経常利益	539	534	△5	83.4%
四半期(当期)純利益	294	340	+46	85.1%

〔資金利益〕	12年度 第3四半期	前年 同期比
合計	914	△58
国内業務部門	825	△50
うち貸出金利息	723	△37
〃 有価証券利息配当金	138	△13
〃 預金等利息 (△)	36	+2
国際業務部門	89	△8
うち貸出金利息	17	+6
〃 有価証券利息配当金	89	△8

※1 実質業務純益＝業務純益＋一般貸倒引当金繰入額

※2 基礎的業務純益
＝業務純益＋一般貸倒引当金繰入額－国債等債券関係損益

預貸金利回り ~ポートフォリオの変化

●2012年12月の預貸金利回り差は1.40%と、2011年12月比 $\Delta 0.10$ ポイント縮小

円貨貸出金・預金構成の変化

【2012年12月と2011年12月の平残・利回りの単月比較】 (兆円、%)

<参考> [08年3月]

	平残 (構成比)	利回り
貸出金	5.8 (100.0)	2.04
変動金利	4.2 (71.8)	2.07
固定金利	1.6 (28.2)	1.96

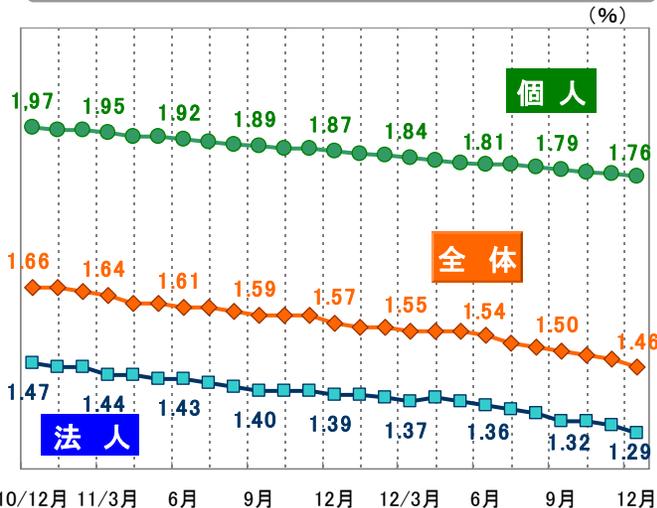
[11年12月]		[12年12月]	
平残 (構成比)	利回り	平残 (構成比)	利回り
6.3 (100.0)	1.56	6.5 (100.0)	1.46
4.9 (77.1)	1.52	5.0 (77.4)	1.44
1.5 (22.9)	1.74	1.5 (22.6)	1.56

【預貸利回り差】

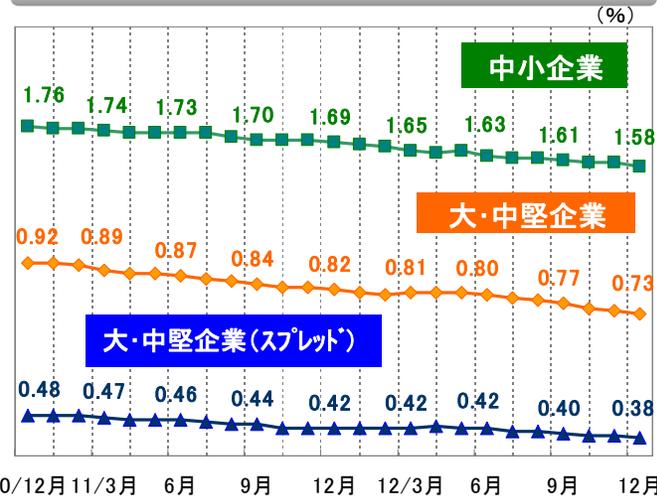
	平残 (構成比)	利回り
預金等	7.1 (100.0)	0.27
うち流動預金	4.0 (56.3)	0.16
うち定期性預金	2.7 (38.7)	0.38

[11年12月]		[12年12月]	
平残 (構成比)	利回り	平残 (構成比)	利回り
7.5 (100.0)	0.06	7.7 (100.0)	0.06
4.1 (54.2)	0.02	4.2 (54.3)	0.02
3.2 (42.4)	0.12	3.3 (42.4)	0.10

貸出金利(月中平均)の推移



うち企業規模別法人貸出金利の推移



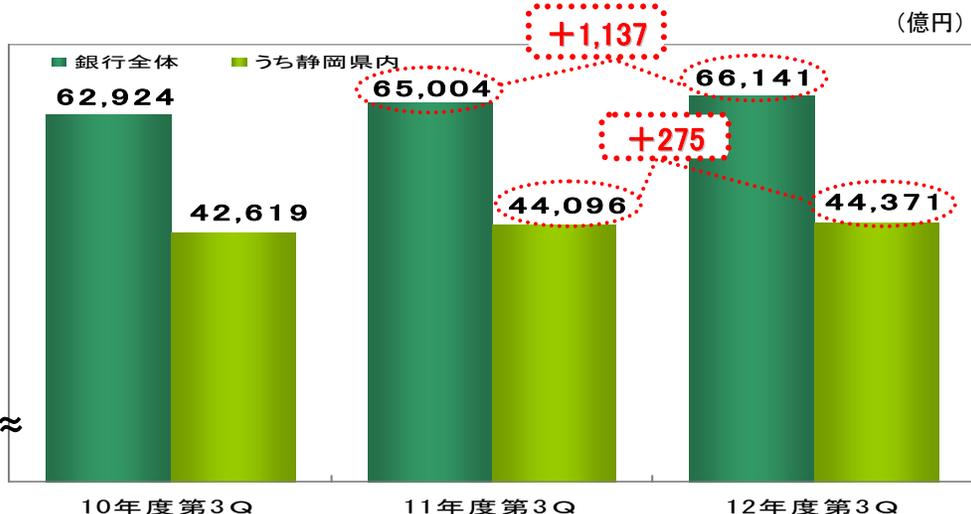


貸出金 ~平均残高

SHIZUOKA BANK

●2012年度第3四半期の貸出金平均残高 6兆6,141億円、前年同期比+1,137億円（年率+1.7%）

貸出金残高(平残)の推移



【中小企業向け貸出】

平残 2兆6,750億円

前年同期比+505億円増加（年率+1.9%）

【個人向け貸出】

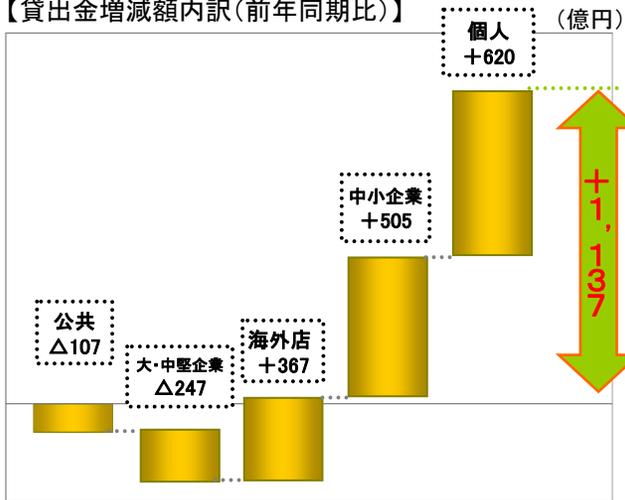
平残 2兆2,941億円

前年同期比+620億円増加（年率+2.7%）

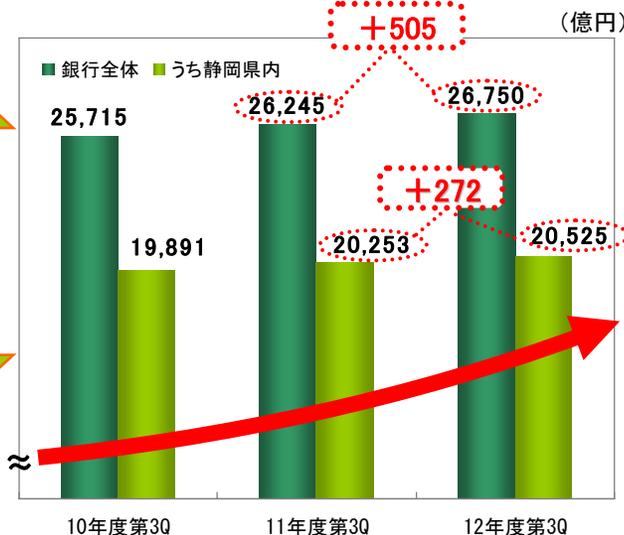
中小企業向けに個人向けを加えた増加額は +1,125億円（年率+2.3%）

企業規模別 貸出金残高(平残)の増減

【貸出金増減額内訳(前年同期比)】



うち中小企業向け貸出金残高(平残)の推移



うち個人向け貸出金残高(平残)の推移



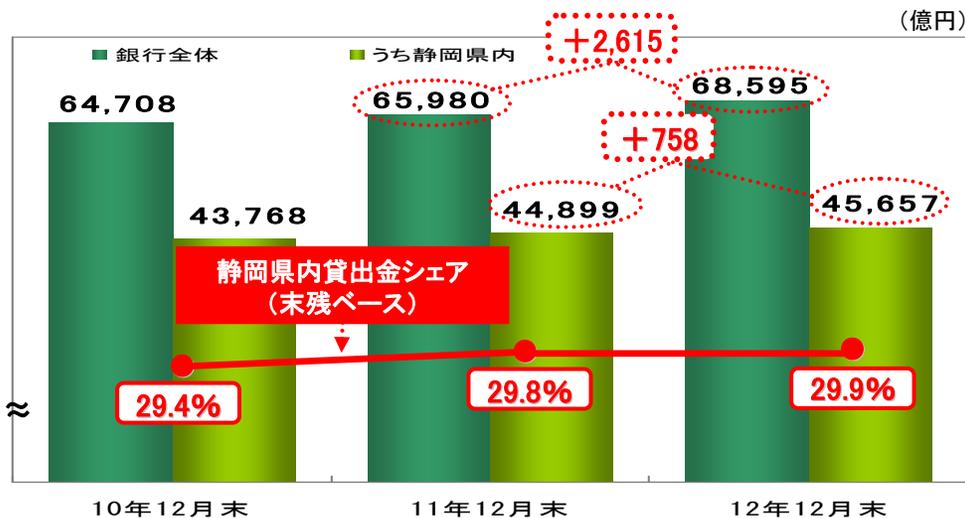


貸出金 ～ 期末残高

SHIZUOKA BANK

●2012年度第3四半期の貸出金期末残高 6兆8,595億円、前年同期末比+2,615億円（年率+3.9%）

貸出金残高(末残)の推移



【中小企業向け貸出】

末残 2兆7,780億円

前年同期末比+605億円（年率+2.2%）

【個人向け貸出】

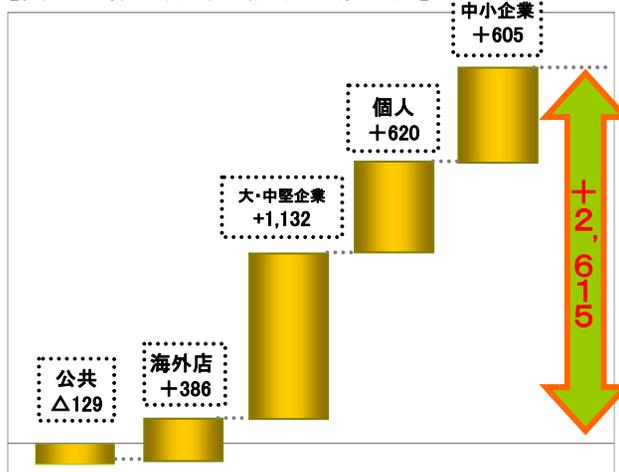
末残 2兆3,271億円

前年同期末比+620億円（年率+2.7%）

中小企業向けに個人向けを加えた増加額は
+1,225億円（年率+2.4%）

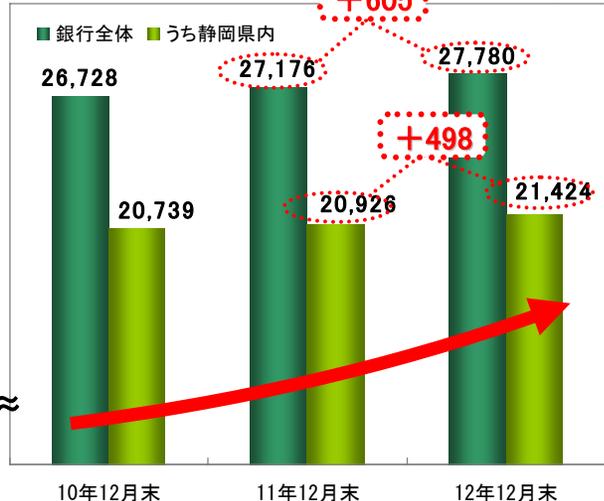
企業規模別 貸出金残高(末残)の増減

【貸出金増減額内訳(前年同期末比)】 (億円)



うち中小企業向け貸出金残高(末残)の推移

(億円)



うち個人向け貸出金残高(末残)の推移

(億円)





与信関係費用

SHIZUOKA BANK

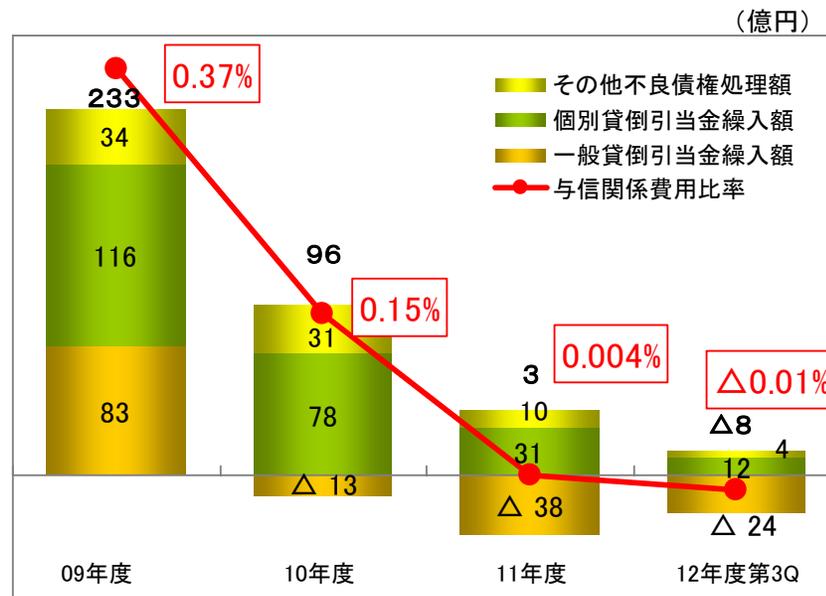
●与信関係費用 △8億円（前年同期比+62億円）、与信関係費用比率 △0.01%（同+0.13ポイント）

与信関係費用の内訳

	(億円)			
	11年度 上期	11年度 下期	12年度 上期	12年度 第3Q
一般貸倒引当金 繰入額	△96	58	△19	△5
個別貸倒引当金 繰入額	22	9	9	3
その他不良債権 処理額	1	9	3	2
合計	△73	76	△7	△1

※数値は合算前の金額を記載

与信関係費用・与信関係費用比率の推移（年度比較）



※与信関係費用比率=与信関係費用÷貸出金平残

【一般貸倒引当金残高変動要因】

(億円)

	11年9月末	12年3月末	12年9月末	12年12月末
前期末一般貸倒引当金残高	487	392	450	431
算定方法変更	△89	+35	—	—
残高・貸倒実績率変動等	△72	△13	△15	△4
DCF引当	△96	+58	△19	△5
DDS引当	+10	+3	△1	—
期末一般貸倒引当金残高	392	450	431	426

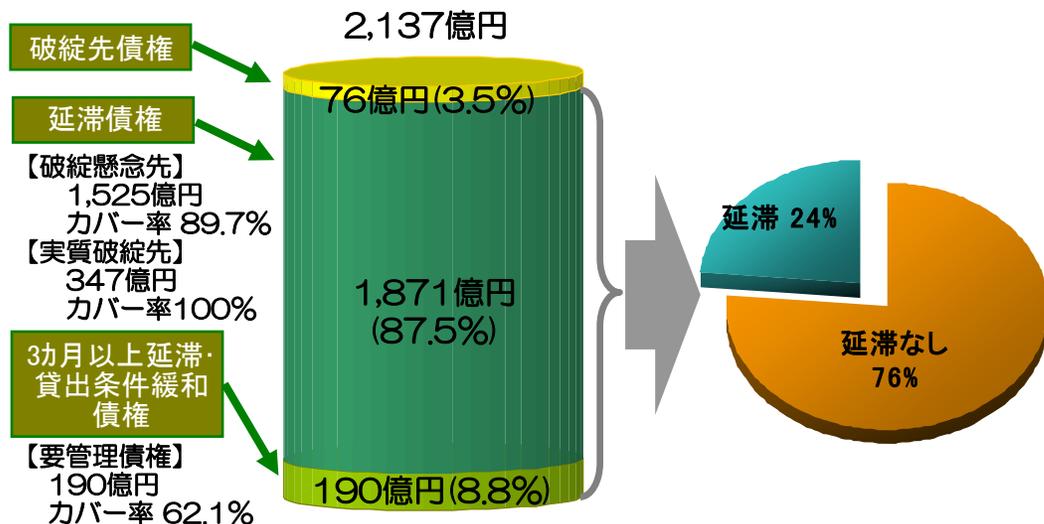


リスク管理債権

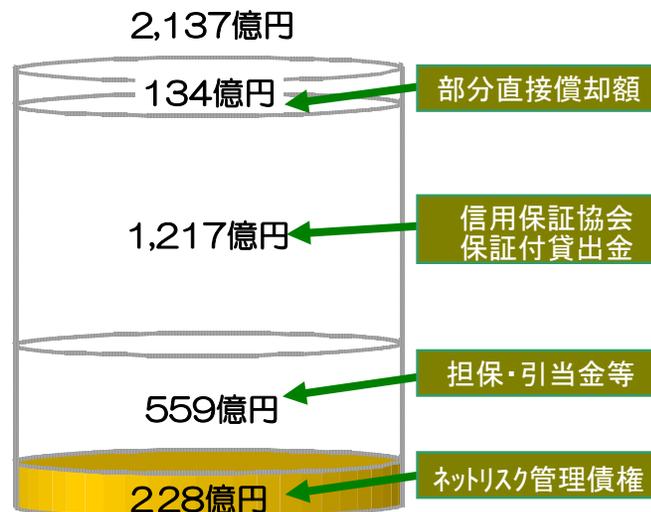
SHIZUOKA BANK

- リスク管理債権の総額（単体） 2,137億円（2012年3月末比 △147億円）
 リスク管理債権比率 3.11%（同 △0.29ポイント）
- ネットリスク管理債権（単体） 228億円（同 +15億円）
 ネットリスク管理債権比率 0.33%（同 +0.01ポイント）

12年12月末リスク管理債権の内訳



ネットリスク管理債権



不良債権のオフバランス化実績

(億円)	11年度	12年度 上期	12年度 第3Q
新規発生	+529	+245	+111
オフバランス化 (うち破綻懸念先以下)	△669 (△607)	△312 (△287)	△191 (△180)
リスク管理債権	2,285	2,218	2,137

〔180億円の内訳〕	
本人弁済・預金相殺	29
担保処分・代位弁済	75
格上	74
債権売却	3
直接償却	0

リスク管理債権比率推移



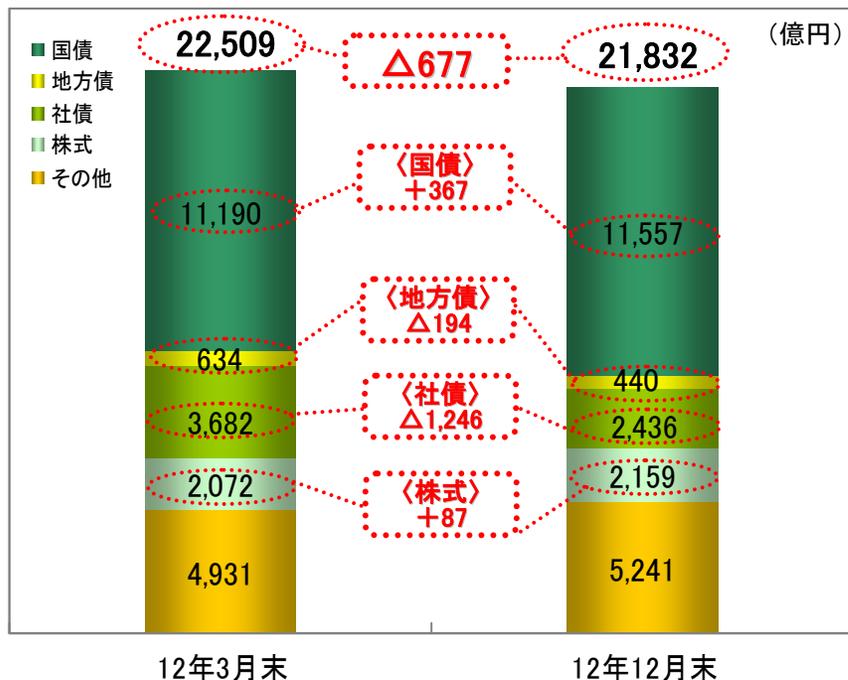


有価証券

SHIZUOKA BANK

- 有価証券残高 2兆1,832億円(2012年3月末比 $\Delta 677$ 億円)、有価証券評価損益1,341億円 (同+65億円)
- 国債等債券関係損益 117 億円(前年同期比 + 31億円)、株式等関係損益 $\Delta 15$ 億円 (同 +49億円)

有価証券残高の推移



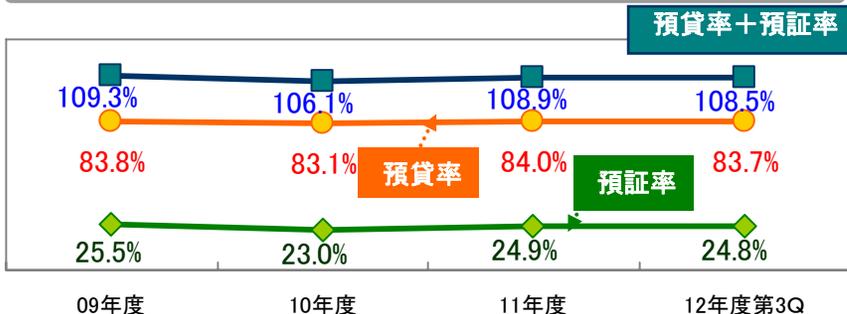
債券平均残存期間・有価証券評価損益の推移

	12年3月末	12年12月末
円債平均残存期間	5.25年	5.16年
外債平均残存期間	3.45年	3.34年
有価証券評価損益	1,276億円	1,341億円
うち株式	881億円	939億円
日経平均株価	10,083.56円	10,395.18円

国債等債券関係損益の内訳

(億円)	11年度 第3Q	12年度 第3Q	増減
国債等債券関係損益	85	117	+31
うち国債等債券売却益	97	121	+24
〃 国債等債券売却損(Δ)	12	4	Δ7
〃 国債等債券償還損(Δ)	-	-	-
〃 国債等債券償却(Δ)	-	-	-

預貸率・預証率の推移

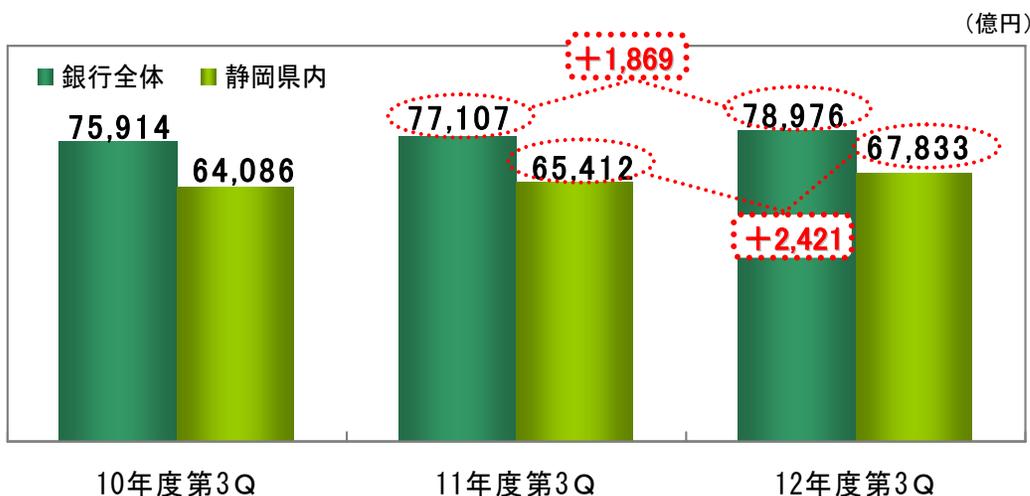


株式等関係損益の内訳

(億円)	11年度 第3Q	12年度 第3Q	増減
株式等関係損益	Δ64	Δ15	+49
うち株式等売却益	1	3	+2
〃 株式等売却損(Δ)	0	0	Δ0
〃 株式等償却(Δ)	64	17	Δ47

●2012年度第3四半期の預金等残高（平残）7兆8,976億円、前年同期比+1,869億円（年率+2.4%）

預金等残高（平残）の推移



【静岡県内預金】

平残6兆7,833億円

前年同期比+2,421億円増加（年率+3.7%）

【個人預金】

平残5兆5,187億円

前年同期比+2,299億円（年率+4.3%）

〔インターネット支店 1,912億円（前年同期比+1,470億円）〕

【法人預金】

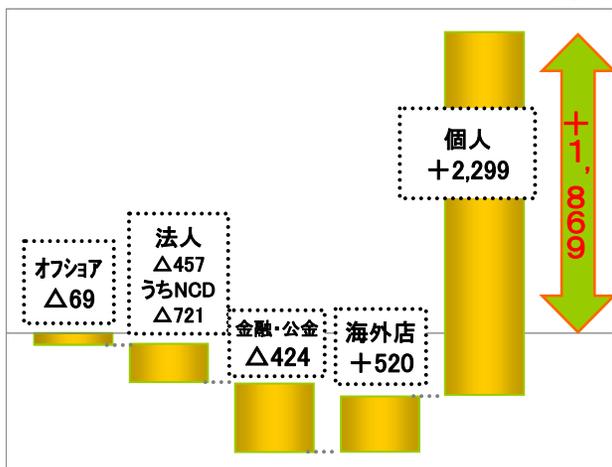
平残1兆9,406億円

前年同期比△457億円（年率△2.3%）

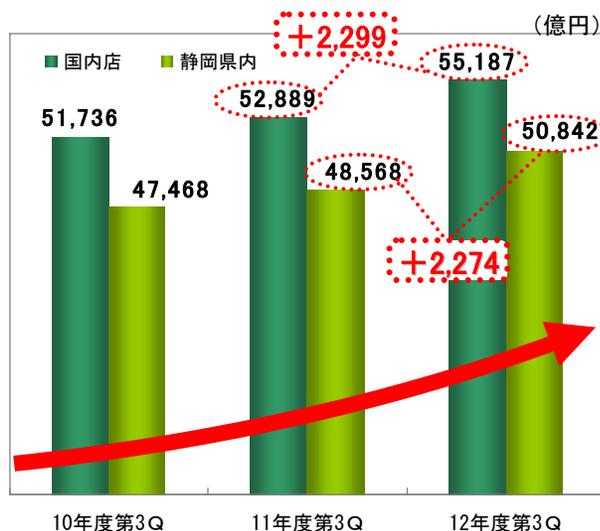
〔NCD除き 前年同期比+264億円（年率+1.5%）〕

預金等残高(平残)増減額の内訳

【預金等増減額内訳(前年同期末比)】 (億円)



うち個人預金等残高(平残)の推移



うち法人預金等残高(平残)の推移



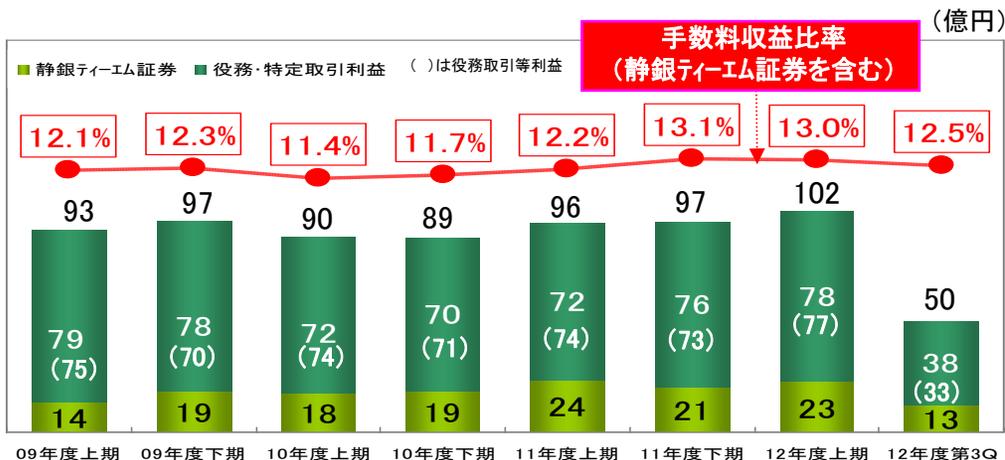


手数料、預り資産

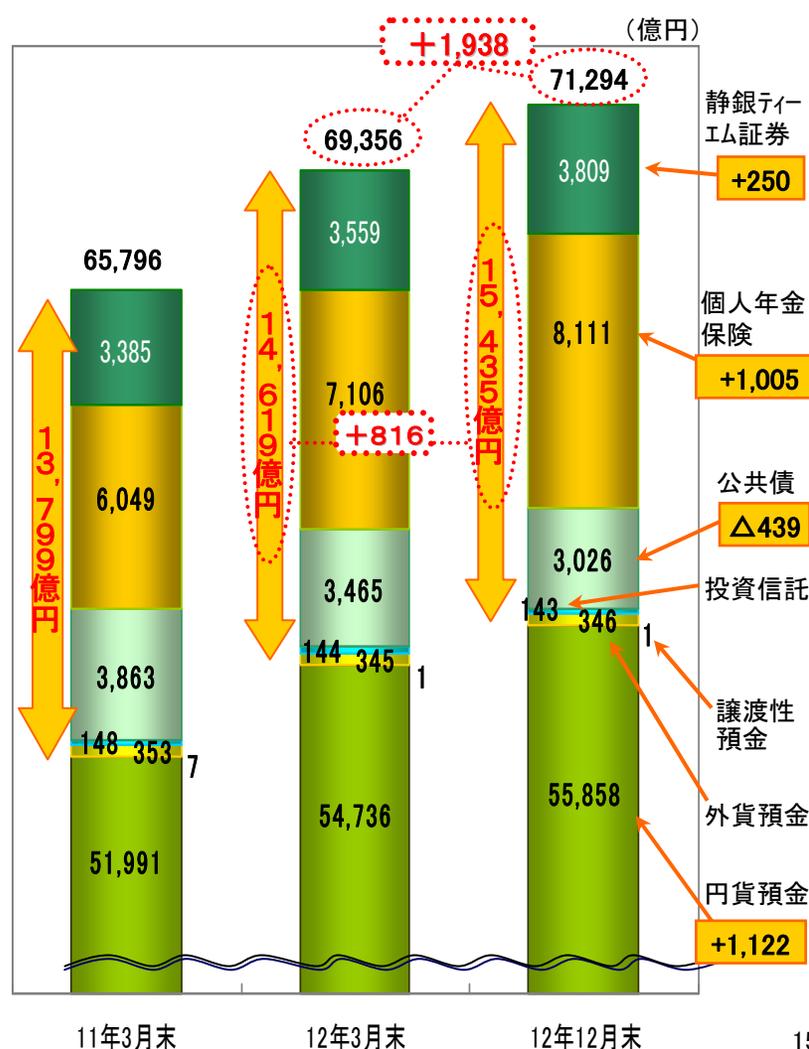
SHIZUOKA BANK

- 2012年度第3四半期 役務取引等利益110億円（前年同期比+2億円）、特定取引利益6億円（同+7億円）
- 個人預り資産残高（静銀ティーム証券含む）は、7兆1,294億円と2012年3月末比+1,938億円増加
うち資産運用商品残高は、個人年金保険が増加（+1,005億円）し、1兆5,435億円と+816億円増加

手数料収益（銀行・静銀ティーム証券）



個人預り資産（未残）の推移



投資信託・保険の販売額、手数料の推移





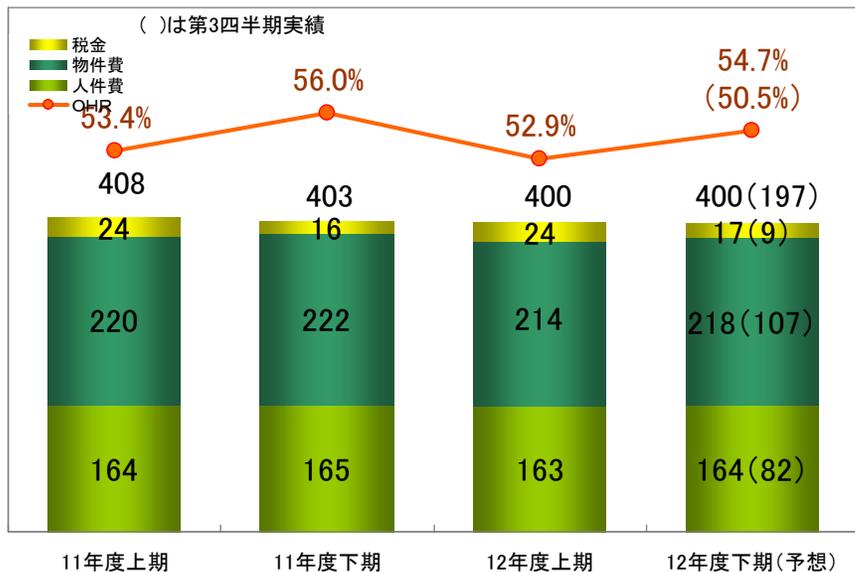
経費

SHIZUOKA BANK

- 2012年度第3四半期 経費598億円（前年同期比▲11億円）、OHR52.1%（同▲0.8%）
- 2012年度通期（単体予想） 経費800億円、OHR55%を目処にコントロールしていく

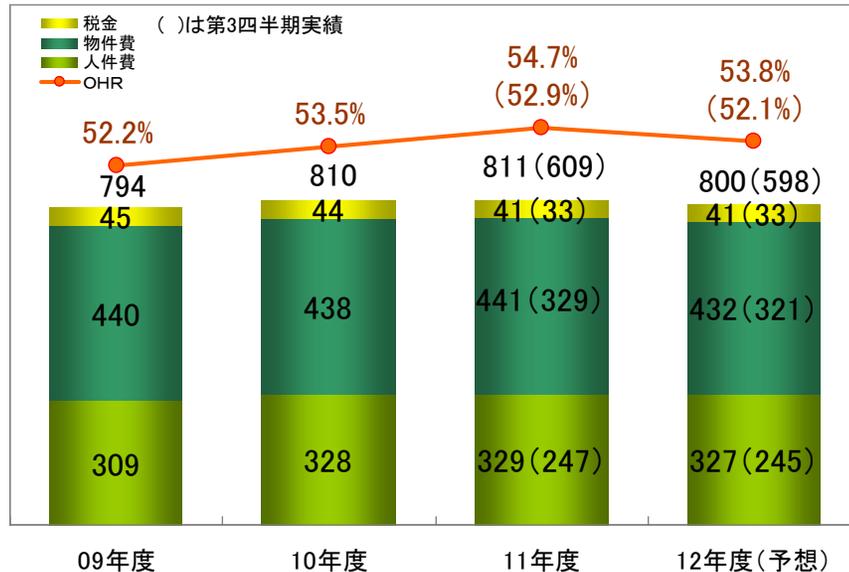
経費およびOHRの推移（半期ベース）

（億円）



経費およびOHRの推移（年度ベース）

（億円）



投資額の推移

（億円）

	11年度 上期	11年度 下期	12年度 上期	12年度 下期(予想)
投資額	32	34	36	45
うちソフトウェア	18	9	16	22
うち建物	5	5	8	9
うち動産	5	8	5	7

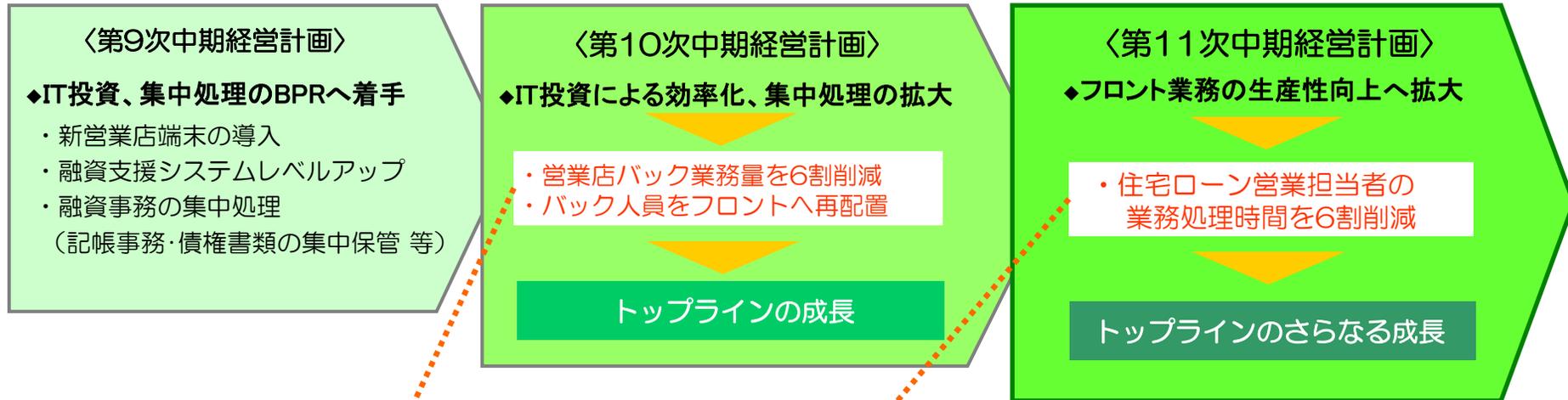
〔参考〕 新本部棟の建設

- ・災害に対する対応力を高めるとともに、地域やお客さまへのサポート機能を強化
- また、ワークスタイル改革による業務の生産性向上を実現
- ・投資予定金額：220億円
- ・完成予定：2015年2月

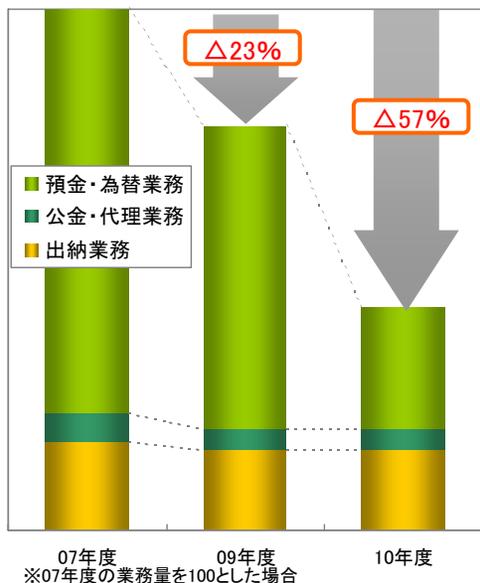


生産性の向上 ～BPRへの取り組み

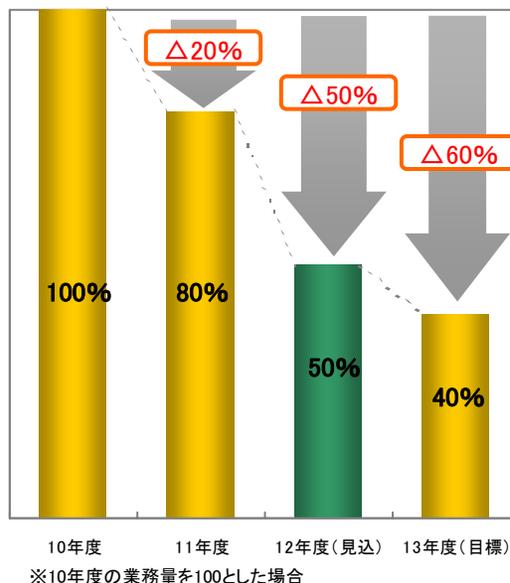
●BPRへの継続的な取り組みにより、総人員を増加させずにフロント人員を捻出 ⇒ トップラインの持続的な成長へ



営業店における業務量削減



住宅ローン業務にかかる処理時間の削減



人員の推移

(人)	08年 9月末	11年 9月末	12年 9月末	08年 9月比
営業店フロント	2,662	3,076	3,137	+475
うち行員	1,996	2,293	2,330	+334
営業店バック・アシスト	1,658	1,063	986	△672
うち行員	392	88	54	△338
全従業員(派遣等を含む)	5,365	5,021	5,011	△354
うち行員	2,914	2,935	2,951	+37

生産性の向上 ～生産性向上による成果

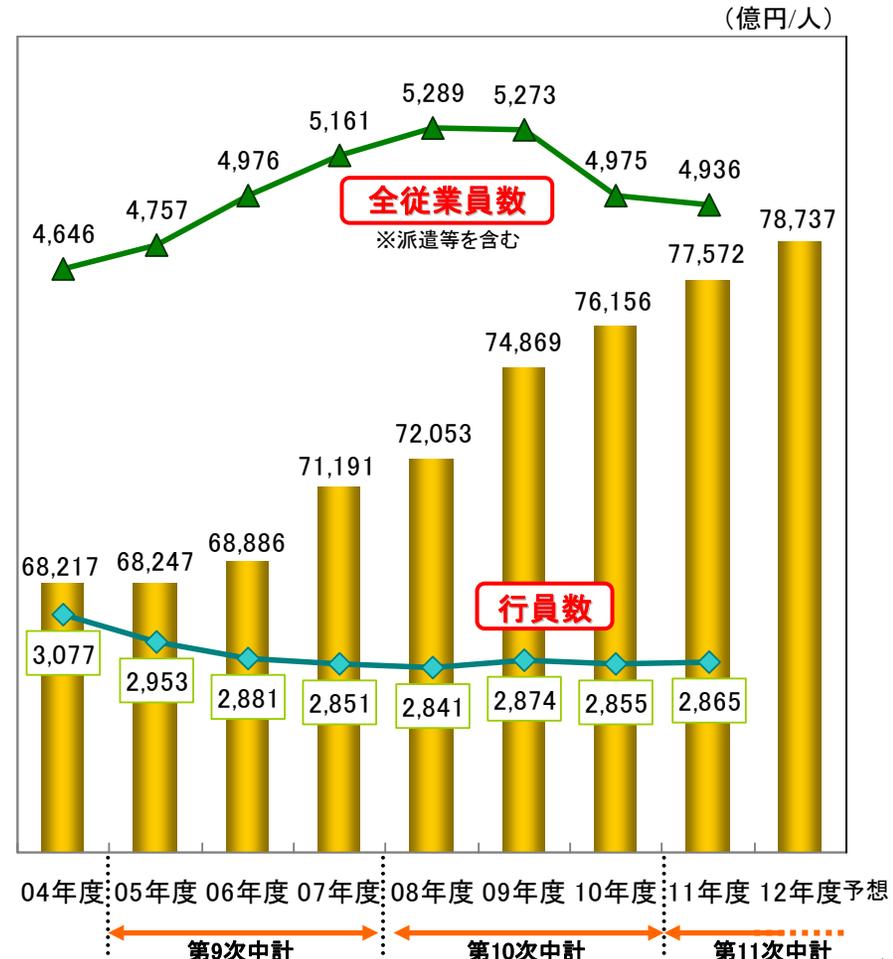
- 生産性の向上により、経費を抑えながら、利益、貸出金、預金の安定的な成長を実現



貸出金平残の推移



預金等平残の推移



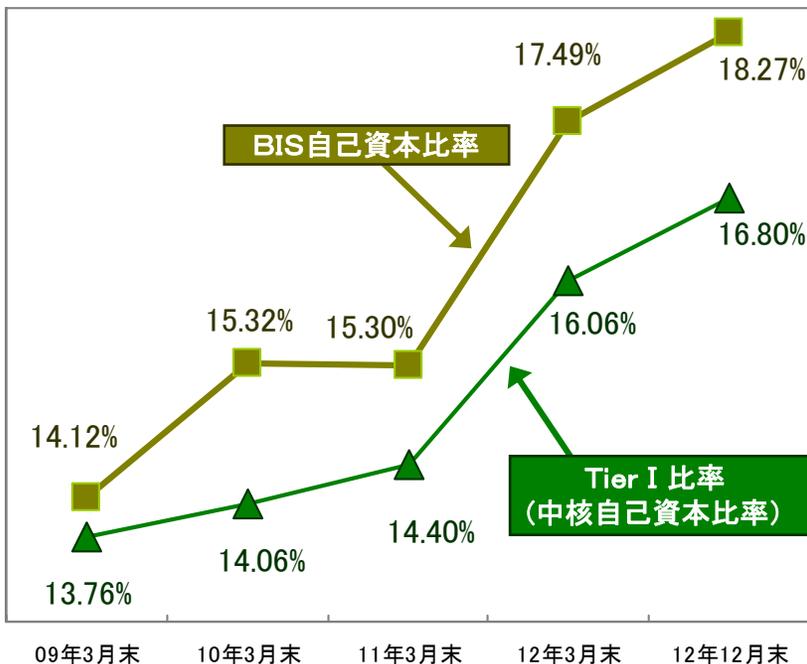


自己資本比率

SHIZUOKA BANK

- 2012年12月末 BIS自己資本比率 18.27% (2012年3月末比 +0.78ポイント)
- Tier I 比率 (中核自己資本比率) 16.80% (同 +0.74ポイント)
- 2010年12月公表のバーゼルⅢテキスト基準により試算した結果、2012年3月末基準の自己資本水準は、規制を上回る水準を確保

B I S自己資本比率(連結ベース)



【2010年12月公表のバーゼルⅢテキスト基準による試算 (2012年3月末基準)】

- ・自己資本比率 : 16.7% (規制水準 10.5%)
- ・Tier I 比率 : 16.5% (同 8.5%)
- ・普通株式等Tier I 比率 : 16.4% (同 7.0%)

自己資本およびリスク・アセット等の推移

(億円)

	10年 3月末	11年 3月末	12年 3月末	12年 12月末	12年 3月末比
自己資本※	6,878	6,861	7,199	7,410	+212
うちTier I	6,314	6,459	6,611	6,815	+204
うちTier II	676	507	633	644	+12
リスク・アセット等	44,889	44,829	41,148	40,551	△597
信用リスク・アセットの額	41,663	41,628	38,004	37,346	△659
マーケット・リスク相当額に係る額	205	165	142	229	+87
オペレーショナル・リスク相当額に係る額	3,021	3,036	3,002	2,976	△26

※ 自己資本には、優先株、劣後債務等を含まない

アウトライヤー比率 (単体ベース)

銀行勘定の金利リスク量	Tier I + Tier II	アウトライヤー比率
214億円	7,165億円	2.9%



株主還元 ~全体像

SHIZUOKA BANK

- 2012年度は、創立70周年記念配当として期末配当を1株当たり1円増配し、年間配当額を15円00銭とする予定

配当額の推移

	09年度	10年度	11年度	12年度予想
一株当たり配当額(年間)	13.00円	13.00円	13.50円	15.00円(7.00円)

() は中間配当額

株主への利益配分の状況

	09年度	10年度	11年度	12年度 上期	12年度 予想	02~11年度 実績(10年間)
配当額①	91	88	89	45	※1 97	773(累計)
自己株式取得額②	40	150	146	82	※2 82	778(累計)
株主還元額③=①+②	131	238	235	127	179	1,551(累計)
当期純利益④	321	354	347	208	※1 400	2,917(累計)
配当性向①/④×100	28.20%	24.85%	25.54%	21.82%	24.32%	26.49%(平均)
株主還元率③/④×100	40.64%	67.22%	67.60%	61.42%	44.91%	53.17%(平均)

11次中計

(億円)

※1. 12年度年間配当額および当期純利益は12年11月公表の業績予想値にもとづく数値

※2. 12年度自己株式取得額は12年12月末までの実績

第11次中計期間における株主還元率 65.2%



株主還元 ～自己株式取得、EPS・BPSの推移

SHIZUOKA BANK

- 1997年度以降、継続的に自己株式取得を実施し、2012年3月末までに151百万株を取得
- 2012年度上期は、20百万株の自己株式を消却したほか、新たに10百万株（取得総額 82億円）の自己株式取得を実施済み

過去の自己株式取得実績

	取得株式(千株)	取得金額(百万円)	消却株数(千株)	消却金額(百万円)	株主還元率(%)	EPS(円)	BPS(円)
1997年度	7,226	9,997	7,226	9,997	90.3	20.39	587.56
1998年度	6,633	9,142	6,633	9,142	86.7	20.12	627.64
1999年度	8,357	9,143	8,357	9,143	51.4	34.14	650.95
2000年度	24,954	23,281	24,954	23,281	152.0	23.73	792.16
2001年度	8,234	8,267	8,234	8,267	165.4	10.26	742.73
2002年度	29,928	23,107	—	—	229.4	16.56	721.33
2003年度	10,712	8,566	30,000	23,381	50.8	37.20	831.76
2004年度	—	—	—	—	17.1	49.41	875.93
2005年度	—	—	—	—	22.5	44.24	1,019.15
2006年度	—	—	—	—	25.3	51.20	1,077.85
2007年度	10,000	12,621	10,000	10,130	61.8	49.89	997.20
2008年度	—	—	—	—	70.8	18.34	903.32
2009年度	5,000	3,996	5,000	4,638	40.6	46.01	998.21
2010年度	20,000	14,980	20,000	15,957	67.2	51.75	1,016.34
2011年度	20,000	14,575	—	—	67.6	52.44	1,097.55
累計	151,044	137,677	120,404	113,938	63.2	—	—
2012年度予想	10,000	8,239	20,000	14,953	61.4	※61.16	1,104.13

※2012年度通期業績予想値による

2012年度業績予想

(億円)

【連結】	2011年度実績	2012年度予想	
		前年度比	
経常収益	2,051	2,070	+19
経常利益	688	690	+2
当期純利益	372	555	+183

(億円)

【単体】	2011年度実績	2012年度予想	
		前年度比	
経常収益	1,748	1,770	+22
業務粗利益	1,483	1,486	+3
経費(△)	811	800	△11
業務純益	672	708	+36
実質業務純益	672	686	+14
経常利益	623	640	+17
当期純利益	347	400	+53

(億円)

与信関係費用	2011年度実績	2012年度予想	
		前年度比	
与信関係費用	3	10	+7
一般貸倒引当金繰入額	(△38)	△22	△22
不良債権処理額	10	32	+22
うち個別貸倒引当金繰入額	(31)	23	+23
貸倒引当金戻入益(△)	7	—	△7

※()は合算前の金額を記載

参考資料



静岡銀行



第11次中期経営計画「MIRAI～未来」の進捗状況①

SHIZUOKA BANK

- 12年度上期は、第11次中計（計画期間：11～13年）の折り返し地点
- 第11次中計で掲げた計画（3年間の累計）に対する利益目標・株主還元目標の進捗状況は概ね順調

		11～13年度 計画累計	11～12年度上期 迄実績累計	進捗率
連結	経常収益	6,100億円	3,092億円	50.6%
	経常利益	1,960億円	1,042億円	53.1%
	当期純利益	1,120億円	723億円	64.5%

単体	業務粗利益	4,520億円	2,240億円	49.5%
	経費(△)	2,460億円	1,211億円	49.2%
	実質業務純益	2,060億円	1,028億円	49.9%
	経常利益	1,850億円	951億円	51.4%
	当期純利益	1,100億円	555億円	50.4%
	貸出金平残増加額	+5,300億円	+2,343億円	44.2%
	預金等平残増加額	+4,500億円	+2,581億円	57.3%
株主還元率	中長期的に50%以上	65.2%	—	

〔第11次中計の後半戦に向けて〕

〔新たな収益機会の開拓〕

充実した自己資本
→ リスクテイクの余地あり

開拓しきれていない市場の開拓

〔規制や変化への対応〕

12年度より保険窓販規制の緩和
→ 保険販売額が過去最高

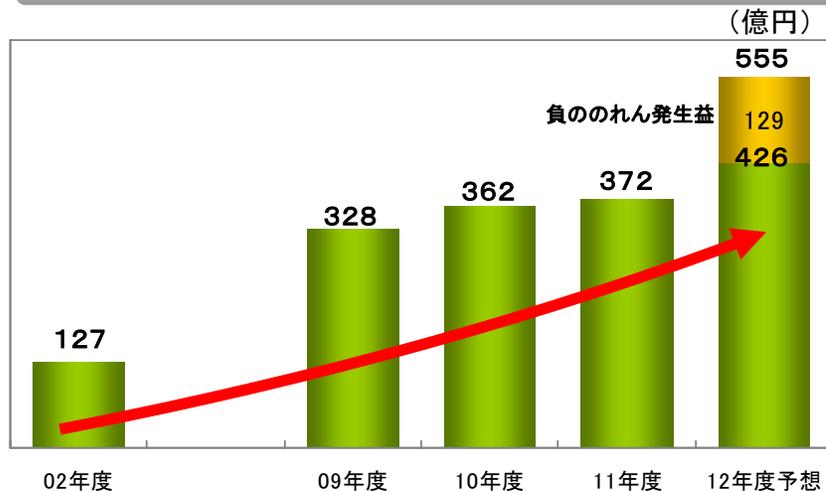
規制や変化をビジネスチャンスと
捉えた各種施策の展開

〔生産性の更なる向上〕

継続したBPRにより人員の戦略的な
配置が可能に

第11次中計の後半戦はフロント人員
捻出効果を成果として出していく

連結当期純利益の推移(10年間)



持分比率引上げによる連結決算への影響

負ののれん発生益

- ・12年度上期 129億円

連結当期純利益の増加(12年度以降)

- ・12年度 約15億円の増益効果
(12年度業績予想値を基準に算出)

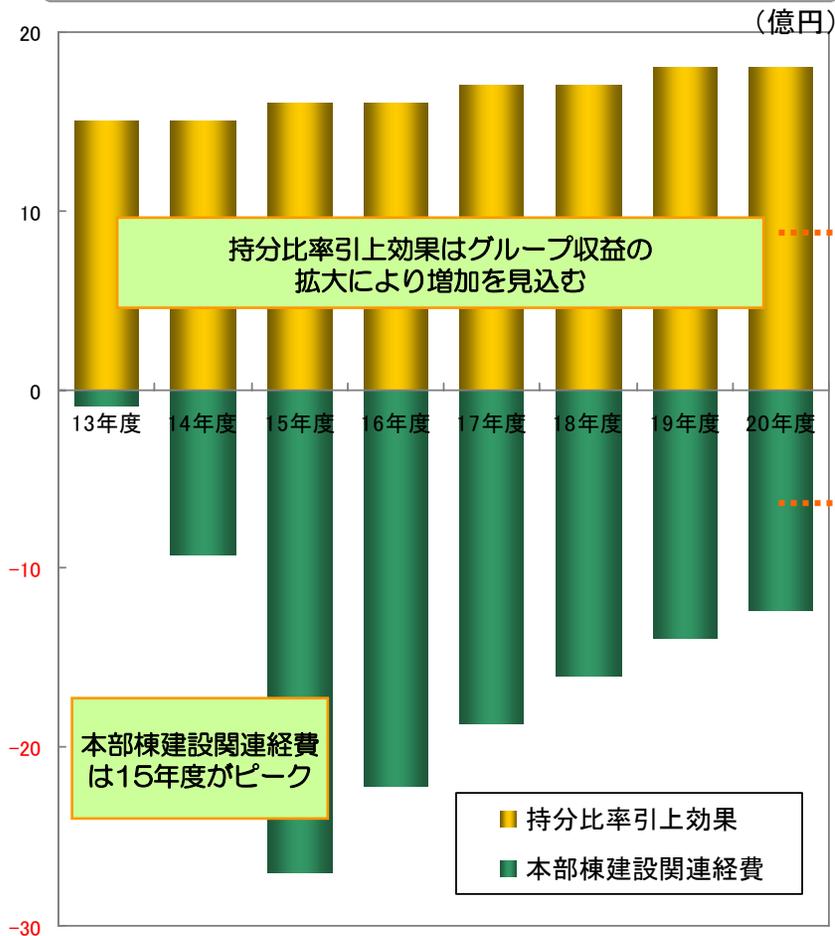
連結ベースの収益性向上

企業価値をさらに高めていくための戦略的な投資へ振り向けていく

- ◆本部棟建設※
 - ・災害に対する対応力を高めるとともに、地域やお客さまへのサポート機能を強化
 - ・ワークスタイル改革による業務の生産性向上を実現
- ◆IT投資
 - ・トップラインの成長につながるシステム投資
 - ・インターネット支店の機能向上～盤石な預金調達基盤の構築
- ◆店舗投資
 - ・成長性が見込まれる地域への戦略的な店舗展開

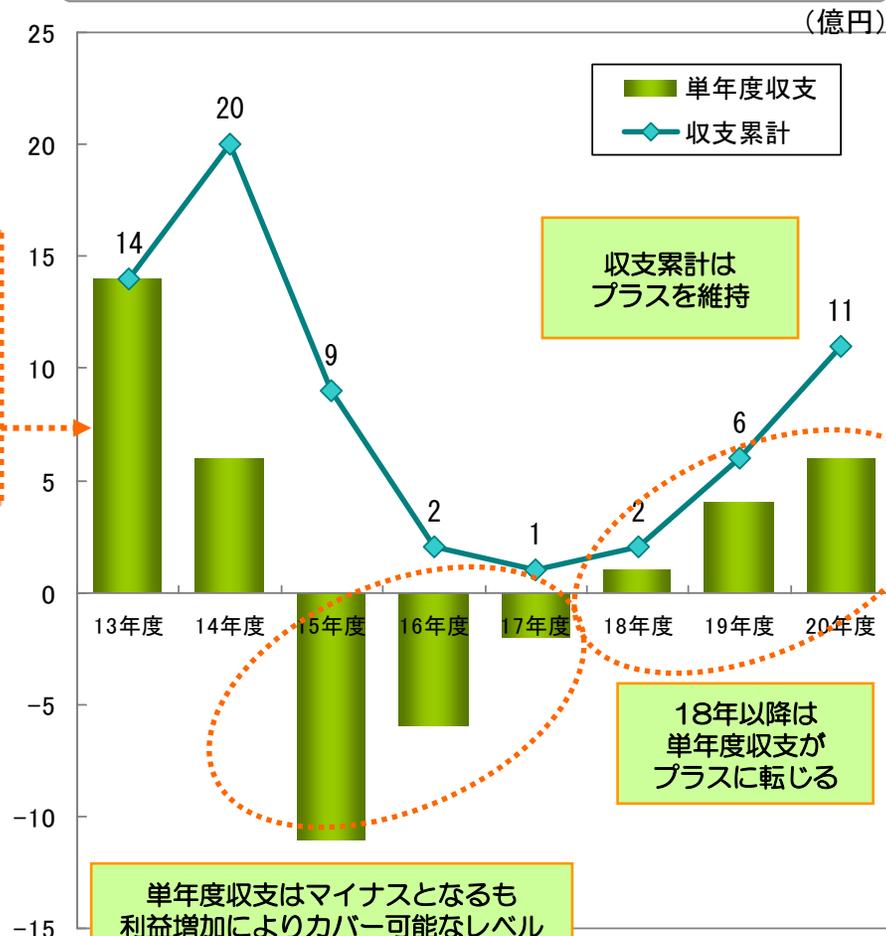
- グループ会社の持分比率引上げによる増益効果により、新本部棟建設に伴う経費増加をカバー
- グループの収益性の更なる向上を図り、システムなどの戦略的投資に充当していく方針

新本部棟建設に伴う経費および持分比率引上効果



※本部棟建設関連経費：システム関連費用を除く一次経費、減価償却費など

新本部棟建設に伴う収支への影響



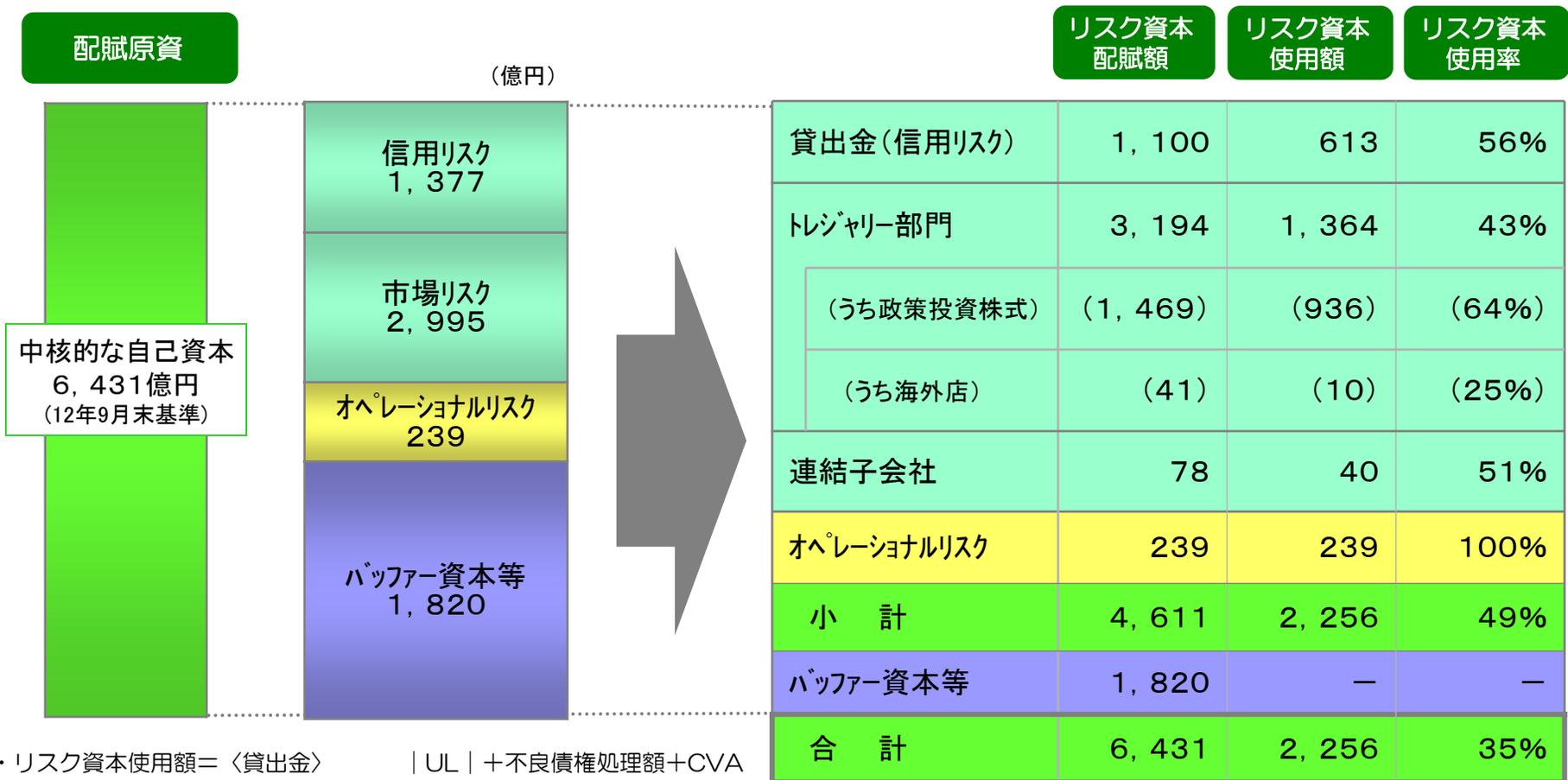
※収支＝持分比率引上効果＋本部棟建設関連経費



リスク資本配賦

SHIZUOKA BANK

- 2012年度下期のリスク資本配賦額は6,431億円、うち信用リスク1,377億円、市場リスク2,995億円、オペレーショナルリスク239億円、バッファー資本1,820億円を配賦
- リスク資本使用額は、貸出金（信用リスク）613億円、トレジャリー部門1,364億円、等



- ・リスク資本使用額 = <貸出金> | UL | +不良債権処理額 + CVA
<投資有価証券> | VaR |
<その他> | VaR |
- ・中核的な自己資本 = 普通株式 + 内部留保 - 社外流出額 - 無形固定資産 - 前払年金費用等
- ・バッファー資本は、東海地震等非常時や計量化できないリスク等への備え

中小企業金融円滑化法による貸出条件変更先の状況

「約定弁済を軽減した貸出条件変更先」の状況（12年9月実績）

対象先・・・債務者区分 要注意先以上かつ、約定弁済を軽減した貸出条件変更を実施した先

	対象先の貸出先数	対象先の貸出金残高		予想損失額 (EL)	一般貸倒引当金残高
			うち非保全額		
中小企業向け貸出	※1 2,421先	2,529億円	836億円	41億円	60億円
住宅ローン	863先	140億円	※2 35億円	1億円	3億円
合計	3,284先	2,669億円	871億円	42億円	63億円

● 事業性貸出取引先数に占める対象先の比率 5.7%

● 対象先の貸出金残高 2,669億円
 総貸出金に占める比率 3.9%
 うち非保全額 871億円
 (同 1.2%)

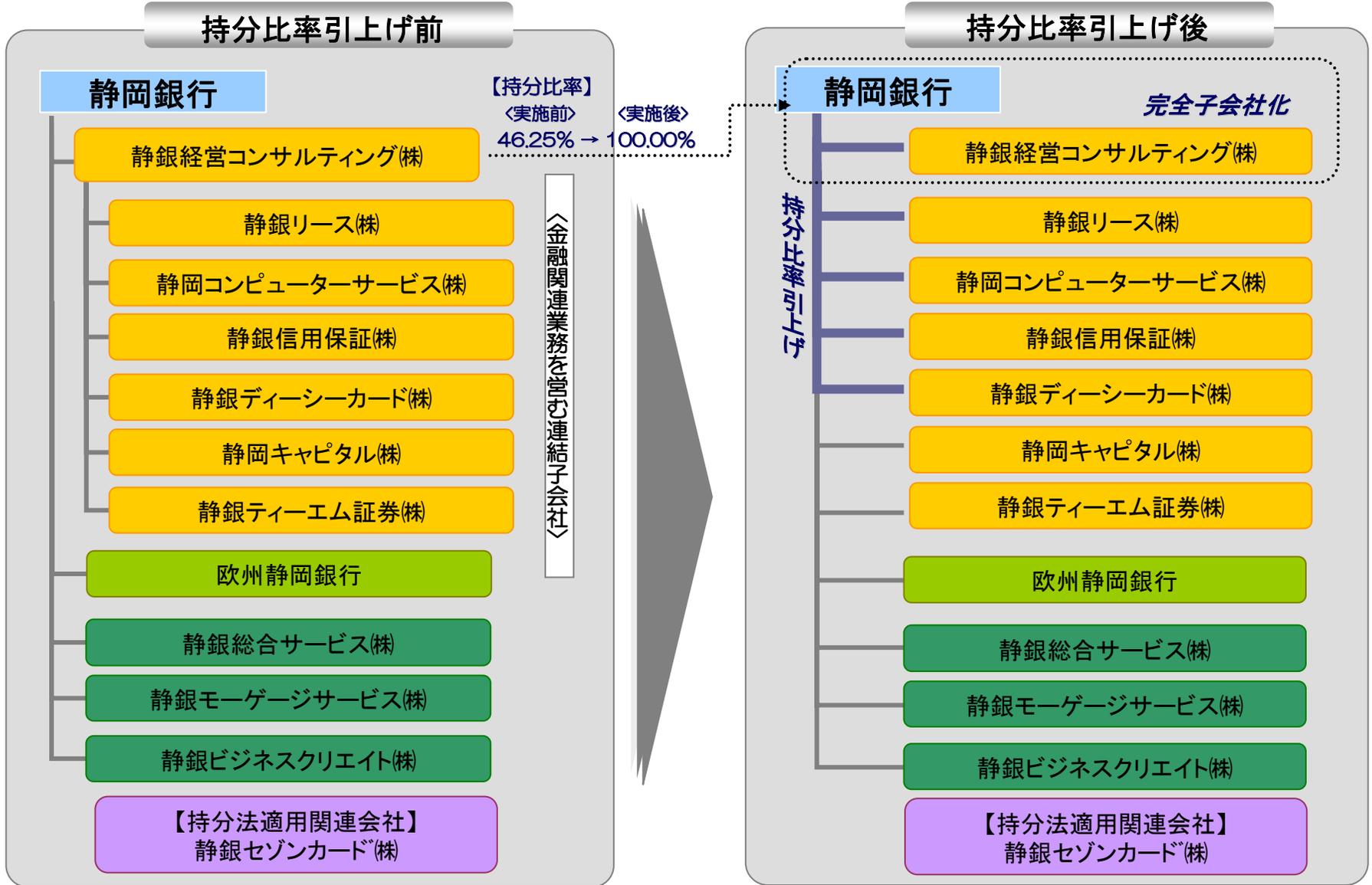
● 対象先の予想損失額(EL)は42億円と、一般貸倒引当金残高63億円の範囲内

※1 本表の中小企業にはアパートローンを含む

※2 住宅ローンの非保全額は、当行回収実績をもとにした保全率により算出

グループ会社の状況①

- 2012年度上期に静銀経営コンサルティングの完全子会社化、連結子会社の持分比率引上げにより銀行本体との経営の一体化を進め、グループ経営のさらなるガバナンス強化を図った





グループ会社の状況②

SHIZUOKA BANK

- 2012年第3四半期までのグループ会社（連結子会社11社）の業務実績は、
経常収益355億円、経常利益45億円を計上

(億円)

会社名	主要業務内容	経常収益		経常利益	
			前年同期比		前年同期比
静銀経営コンサルティング(株)	経営コンサルティング業務	2	△0	0	△0
静銀リース(株)	リース業務	185	+5	14	△0
静岡コンピューターサービス(株)	コンピューター関連業務、計算受託業務	33	△5	1	△0
静銀信用保証(株)	信用保証業務	14	+2	10	+2
静銀ディーシーカード(株)	クレジットカード業務、信用保証業務	13	△1	3	△1
静岡キャピタル(株)	株式公開支援業務、中小企業再生支援業務	3	+0	1	△0
静銀ティーム証券(株)	金融商品取引業務	36	+3	13	+1
欧州静岡銀行	銀行業務・金融商品取引業務	3	△1	0	△0
静銀総合サービス(株)	労働者派遣業務等	22	△1	0	+0
静銀モーゲージサービス(株)	銀行担保不動産の評価・調査業務等	12	+1	0	+0
静銀ビジネスクリエイト(株)	為替送信・代金取立等の集中処理業務等	32	△3	0	△0
合 計 (11社)		355	△0	45	+1
静銀セゾンカード(株) ※	クレジットカード業務、信用保証業務	9	+1	0	+0

※持分法適用関連会社、2006年4月開業

本資料には、将来の業績に関わる記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。

将来の業績は、経営環境の変化などにより、目標対比異なる可能性があることにご留意ください。

〔本件に関するご照会先〕

株式会社 静岡銀行 経営企画部IR担当(梅原)

TEL:054-261-3131(代表)

054-345-1116(直通)

FAX:054-344-0131

E-mail:kikaku@jp.shizugin.com

URL:http://www.shizuokabank.co.jp/